

イ 中学年の取組 【第3学年「あの日のこと」(尊敬・感謝)】

① めあて

あやさんの助けてくれた人たちへの感謝の気持ちを考える学習を通して、自分たちの生活を支えてくれる人々に対して感謝の気持ちを持って接する心情を育てる。

② 実践

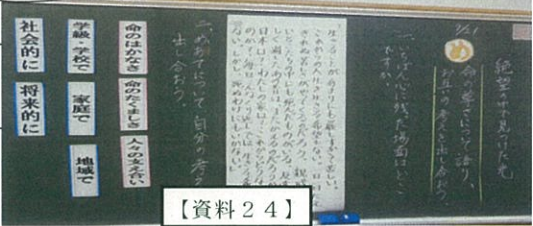
みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	かがやき支援 (体験活動を生かす支援)
みとめる 問題意識を持たせる発問	1 感謝の気持ちを伝えているか振り返る。 周りの人に「ありがとう」と言っていますか ・「ありがとう」を言っているつもりだったけど、伝わっていないんだな。 今日は「心からのありがとう」について考える1時間です。 【資料18】 	体験とつなぐ アンケート結果を生かし、自分たちの感謝の言葉がどれだけ伝わっているか考えさせ、価値への方向付けをする。
ふかめる 問題意識を高める発問 ねらいとする道徳的価値に迫る発問 ねらいとする道徳的価値に深く迫る発問	2 資料を聞き、話し合う。 心に残ったことやもっと知りたいことはありませんか。 ・助けてくれた人たちがやさしいと思った。 ・一人で頑張っているあやさんがえらいと思った。 うれしくて、ますます大きな声で泣いてしまったときのあやさんの気持ちを考えましょう。 ・助けてくれてありがとうという気持ちです。なぜなら私も助けもらったときとっても嬉しかった体験があるからです。 ・知らない人なのに、わたしのことを心配してくれてありがとう。 ・いろいろな人がやさしくしてくれて、うれしいな。 あやさんにとってどんな気持ちがふくらんだから、「あの日のこと」がすてきな出来事になったのでしょうか。 あやさんは「ありがとう」の気持ちでいっぱいになったんじゃないかな。わけは、私も人から優しくしてもらったとき、とってもいい気持ちになったからです。 	体験とつなぐ 自分の考えの根拠として、自分自身の体験を述べさせている。「わけは...からです。」と、発言につけさせることで、自分のこととして考えられるようになった。
ねりあげる 自分を見つめさせる発問	3 自分が支えられた経験を振り返る。 みんなはだれに「ありがとう」を伝えたいですか。伝えたい「ありがとう」を「ありがとうカード」に書きましょう。 いつもお花のお世話ありがとうございます。私はお花が大好きです。  【資料20】	【資料19】 直接体験 ハートカードに感謝の気持ちを書いて、直接用務主事さんに渡し、感謝する体験を組み込んだ。
つなぐ 道徳的実践意欲を高める工夫	4 身近な支えてくれる人(用務主事さん)の話を聞く。 言葉や行動で「心からのありがとう」の気持ちを伝えていくと、相手にも伝わりますね。 ・親切したり、されたりすると心がぽかぽかになるな。 ・親切をもっとたくさんしたくなったな。	 【資料21】

ウ 高学年の取組 【第6学年「絶望の中で見つけた光」(生命尊重)】

① めあて

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする態度を養う。

② 実践

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	かがやき支援 (体験活動を生かす支援)
みとめる 資料へつなぐ 発問	1 2枚の感謝の気持ちを伝えているか振り返る。 2枚の写真を見て、どんなことを考えましたか。  ・笑顔⇔笑顔がない。 ・温かい⇔不安・恐怖 ・親子⇔大切な物を失った。 【資料22】 今日は「命の尊さ」について考える1時間です。自分の思いを積極的に出し合ひましょう。	体験とつなぐ 今までの体験や知識から、2枚の写真を提示し、比較させることによって、「絶望と光」について、イメージを膨らませた。
ふかめる ねらいとする 道徳的価値 に迫る発問 ねらいとする 道徳的価値 に深く迫る発問	2 資料を読み返し、話し合う。 世話をしている人々の姿を見て「わたし」はどんなことを考えたと思いますか。 ・この状況でもみんな頑張っている。 ・私も手伝いをしよう。 自分も誰かの力になれるかもしれないと思ったんじゃないかな。 「わたし」が学んだことは何でしょうか。 ・命のたくましさ。 ・人々が協力しあうことの意味。 ・希望を持つ大切さ。   【資料23】 【資料24】	
ねりあげる 自分を見つめさせる発問	3 自分が支えられた経験を振り返る。 今までの自分を振り返りましょう。これまで学習してきたことをもとに、命の尊さについて語り合ひましょう。 ・地震で壊れた家をボランティアの人たちと一緒に片付けている人を見ると、たくましさを感じた。 地震に遭ったけど、希望を持って生きていくことが大事だと思ったよ。	 【資料24-2】
つなぐ 道徳的実践意欲を高める工夫	4 学習後の感想を伝え合う。 かけがえのない命を大切に、周りの人たちへ思いやりを広げていきましょう。 ・一つしかない命を大切にしようと思いました。	体験とつなぐ 児童が体験したこと(地震体験・地震の際たくさんの人たちに支えられた体験等)と生命尊重について重ねられるよう声かけをした。

エ 特別支援学級の取組～ユニバーサルデザインの視点～

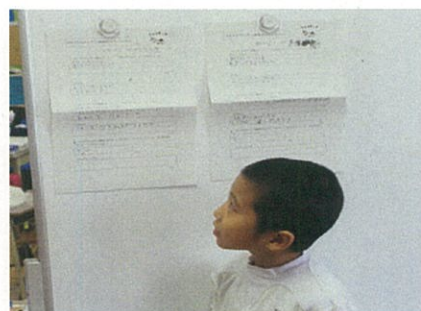
①なかよし2組（自閉症・情緒障がい学級）【「きょうは、どうしたのかな」（感謝）】

・体験活動と道徳の授業をつなぐ取組

本題材の授業では、資料を自分のこととして考えられるように「さわやかさんサン運動会」での体験と重ねて考えさせた。交流学級の友達から応援メッセージを受け取り、当日は家族が応援に駆け付けたことなどを振り返らせ、運動会の大成功の裏には沢山の支えがあることに気づかせたいと考えた。

・合理的配慮

体験と重ねて考える手立てとして、運動会当日の写真や振り返りシート等を有効活用した。視覚的な刺激があるため、集中力も持続することができた。



【資料25 自分の考えを発表する児童】

資料について考えた後、応援メッセージや家族が応援している写真を見て「ありがとうと伝えれば良かった。」と話した。授業終盤にはそれぞれの家族からの手紙を紹介し、改めて「支えられていること」に気づき、感謝することができた。

②交流・共同学習での取組

・教育的ニーズに応じて

特別支援学級の児童は、各々の教育的ニーズに応じて学習している。また、交流学級での学習を通して日々コミュニケーション能力や個性の伸長を適宜図っている。その際に発達段階に応じた教材・教具の工夫により、段階を経て伝えること（発表）で、達成感を得て自己肯定感を高めることができると考えている。

・合理的配慮

心情を考えることや、自分の考えを表現するのが苦手な児童に対しては、顔の表情カードや心情を表すカードを作成し、活用している。また、場合によっては、ホワイトボードも使用し、思いや考えを視覚的に捉え、発表内容を整理していく。話合いが難しい児童に対しては、寄り添って助言をしている。

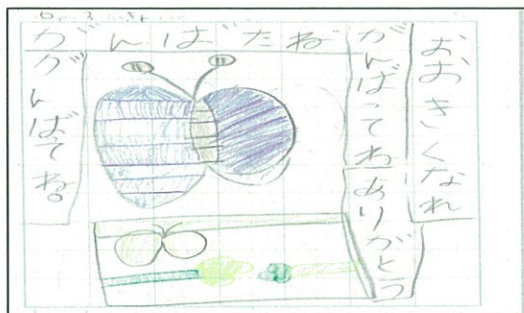


【資料26 交流学級での授業風景】

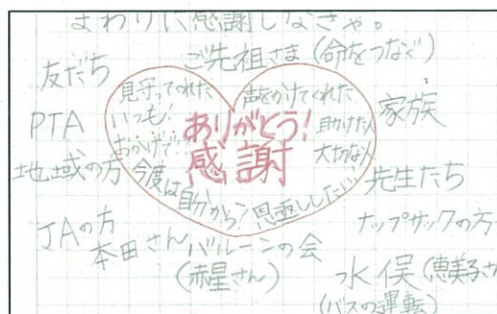
3 仮説3【成長を実感できる道德の評価の工夫】に関する研究

(1) 道德ノートを活用

ア 授業での活用



【資料27 1年生の道德ノート】

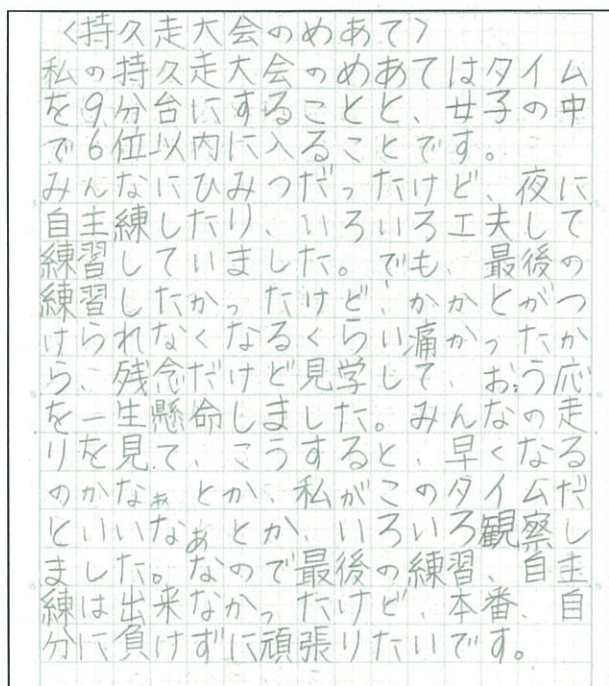


【資料28 5年生の道德ノート】

【資料27】は、1年生の授業での活用例である。生活科で育てたチョウチョの羽化を喜び、その時の気持ちをノートに記している。生き物が成長する喜びやこれからの願いを絵と文で表した。自分が体験し、感動したことを表現することで、新たな価値への気づきがあると考ええる。

【資料28】は、5年生の授業での活用例である。道德の時間に考えたことをイメージマップで表した。「感謝」という言葉に対して、イメージしたことを道德ノートに書き出していくことで、その言葉のもつ意味を深く考えていくことができた。

このように、発達段階に応じてノートの記述の仕方、活用方法を工夫している。



【資料29 5年生持久走大会の目標】

イ 行事等のめあて・振り返りに活用

【資料29】は、持久走大会のめあてを道德ノートに記入したものである。行事のめあてを書くことにより、一人ひとりが目標や心構えを持って取り組むことができた。また、行事後には、自分のめあてに対して振り返り、反省や感想を記入している。このように、文字を通して自分と向き合うことで、心の変容を実感できると考える。また、教師の励ましや評価のコメントを書き加えることで、より自分の成長に目を向けることができた。